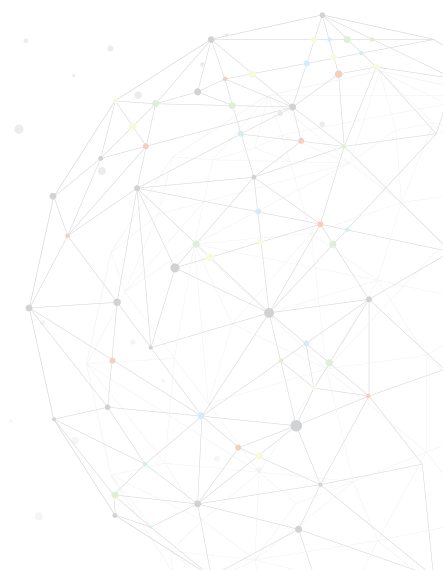


中長期計画



笑顔おどる「粋」な、まち! ~明るいとかしまの実現~

はじめに

本年は1957年(昭和32年)に産声をあげた社団法人徳島青年会議所が60歳の誕生日を迎える年です。

徳島青年会議所設立趣意書の初めに「青年は高度社会への推進力であり、祖国日本の生成発展への道もまたわれわれ青年の双肩にかかっています。われわれはこの自ら誇りとする青年の意気と情熱を確信して互に団結し助け、戒め、その知性と体力の向上によって将来における経済社会を担うための用意をし、その指導力の養成に努め、もってこの重責にこたえるため、ここに徳島青年会議所を設立するものであります。」という文面があります。これをもとに設立され、修練・奉仕・友情の三信条を基盤とし、青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げるよう努力してまいりました。

我々は先輩諸氏が構築してきた強固な組織や多岐にわたるネットワーク基盤の上に立ち、組織としての更なる飛躍と、先人が築き上げた素晴らしい徳島を次代の人々へと引き継ぐため、中長期計画を提示する必要があると考えました。

「笑顔おどる「粋」な、まち! ~明るいとかしまの実現~」このタイトルは天下を藍色で覆ったとも言われる程に栄えた「粋」な阿波商人のイメージから名づけました。本来「粋」とは、意気と書き、あふれる元気や気概を示しており、積極的な心をあらわします。そして、「笑顔おどる粋な、まち」とは、元気あふれるまちにしたいという意志であり、市民が「積極的な心」を持つ、つまりは青年会議所の目指すActive Citizensの実現を意味します。その実現のためにも現在、徳島青年会議所が置かれている立場を多角的に見つめ直し、徳島の明るい豊かな社会に向けて道標となる中長期計画を策定します。



公益社団法人日本青年会議所はJCIに属し、世界平和の実現のため、そして日本各地に法人を設立し、一般社団法人徳島青年会議所(以下徳島JCI)は地域益を最大化すべく、JCI宣言文に則した運動を展開する組織として存在しています。

そして2017年に、創立60年を迎える団体となり、2017年8月1日現在、会員数146名の青年経済人を有する組織です。

第I章 法人概要

法人名	一般社団法人 徳島青年会議所
会員数	118名 (2017年1月1日現在)
所在地	徳島市南末広町58 経済産業会館2F
創立	1957年8月6日
LOM 認証番号	N o.123 (1957年8月18日 認定伝達)
スポンサー LOM	一般社団法人 大阪青年会議所
友好 LOM	一般社団法人 千葉青年会議所
友好 LOM	一般社団法人 神戸青年会議所

徳島青年会議所設立趣意書

青年は高度社会への推進力であり、祖国日本の生成発展への道もまたわれわれ青年の双肩にかかっています。われわれはこの自ら誇りとする青年の意気と情熱を確信して互に団結し助け、戒め、その知性と体力の向上によって将来における経済社会を担うための用意をし、その指導力の養成に努め、もってこの重責にこたえるため、ここに徳島青年会議所を設立するものであります。経済は人類社会の基盤であり、われわれ青年で経済事業にたずさわる者は、広く同志と呼び相集い、力を合わせて我が国経済の進歩に寄与すると共に、後進地帯に清濁を分けず、或は風俗習慣の異なる文化となるべきだと考えます。

今や経済活動は国際的となり、我々経済も広く世界との関連において成り立つものであります。大きく目を世界に注ぎ、常に研さんる積み、青年のこたわりのない強い友情の力を信じ、日本青年会議所あるいは国際青年会議所の諸君とも相提携し自らを育みつつ国際社会にも貢献しようではありませんか。われわれはかかるやむがたい意欲と信念に基づき、ここに徳島青年会議所を設立しようとするものであり、広く有識の同志のご賛同を希すします。

昭和三十三年三月八日

徳島青年会議所 同人

JCI宣言文の推移

宣言文は昭和十五年(牛尾金閣=東京JCI)に新編での全国大会で決議文が、そして翌年になって宣言文として採択されている。日本JCIの「日本JCIのめざす」の中に其の経緯が詳しく書いてある。「日本のJCIは『修練、奉仕、友情』の三原則を掲げて四十歳までの青年指導者が集まるという新編のスローガンから、一九六〇年度には綱領が制定され、『明るい豊かな社会』を建設する運動、いかにいかに社会改良、指導が開始を基盤とする運動に発展してきた。しかし新編の『明るい豊かな社会を築きあげよう』あるいは定款第三條の『日本経済の正しい発展と福祉国家の建設を図る』という字句は、いずれもあいまいである。このくらいのことならJCIでなくても構えられる。そこで、この内容をもう一度再検討して現行に要請されるJCI運動の目標を、より明確に打ち出そうということになった」と。

その結果、第一は社会正義の問題、第二は経済体制、すなわち自由経済を第一の原則として人権尊重をどう盛り込むか、そして憲法が日本の独立と憲法問題の問題、この三つが中心の問題を盛り込んだ宣言文という宣言文といふものをどう宣言文が採用された。これに基づいて作られたのがJCI宣言文である。

当初宣言文は一言に宣言として採択したかったのだが、こういう問題はあり過ぎてはいけないという配慮から、まず新編の全国大会の決議文をすることとされた。とくに綱領JCIクリートがキリスト教的で、社会福祉を中心とする考えが強いのに対して、JCIクリート色を抜いてつくってあり、宣言文もそれに準ずる項目がない点でJCIクリートと決定的に違うという特徴がある。

一九八九年九月二十八日から十月一日まで東京都で全国大会が開催され、採択された。それまでの宣言文は昭和十五年に採択され、翌年に宣言文として採択され、昭和六十三年度まで使われてきたものである。新宣言文は、新しい時代に、JCI運動が生まれ変わる事を期して採択されたのである。「88JCI宣言文」は、十四年間に渡り使用され、まさにバブル期ののどかしい時代変化の中、宣言された。

二〇〇一年十月十一日から十月十四日まで大阪市で全国大会が開催され、採択された。この年、日本青年会議所は創立五十周年を迎えたのを期に、時代変化に対応し「2000年代運動指針」を採択したとなった。この宣言文は、以下の観点から成り立っている。

- 1) 社会経済変革に備える団体として、またJAYCEEとしての観点
 - <社会経済変革としての覚悟>
 - ・日本の青年会議所に所属していること
 - ・時代を切り開く
 - ・誇りある青年
 - ・国際的な自らを誇り、社会に貢献を促す役割
 - ・時代の先駆者
 - <人間力開発を目標とすること>
 - ・運動に臨むにあたり自ら律する事
 - ・素直さ
- 2) 時代変革からの観点
 - <50年の歴史をふまえて>
 - ・創始の志を持って
 - ・目標、敬愛
 - <個々の平和のとれた社会を目指して>
 - ・権利と義務
 - ・我々の思いは、みんな(社会)の思いであるという信念
 - ・公共心

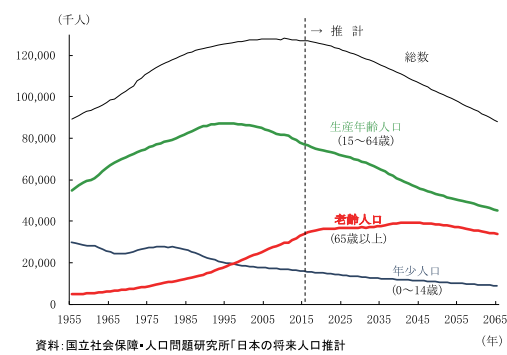
徳島青年会議所の運動を推進するために、 我々が分析する現状について。

人口問題

◎人口減の現実

2025年頃には、戦後のベビーブーム世代が全て後期高齢者となり、日本に超高齢化社会が到来する節目として今後10年間は非常に重要な期間となります。そして、現在日本全体でも少子化が進行し、1920年の国勢調査開始以来、初めて日本の総人口が減少しました。徳島市においても1995年に約26万9千人をピークとし、その後減少傾向になり、2015年には約25万9千人となっています。また、経済力は東京一極に集中し、地方都市における経済力の低下が課題となっています。さらに、大都市への人口流出や域外への消費の流出、中心市街地の活力低下がみられます。

日本の人口推移・将来推計(中位)



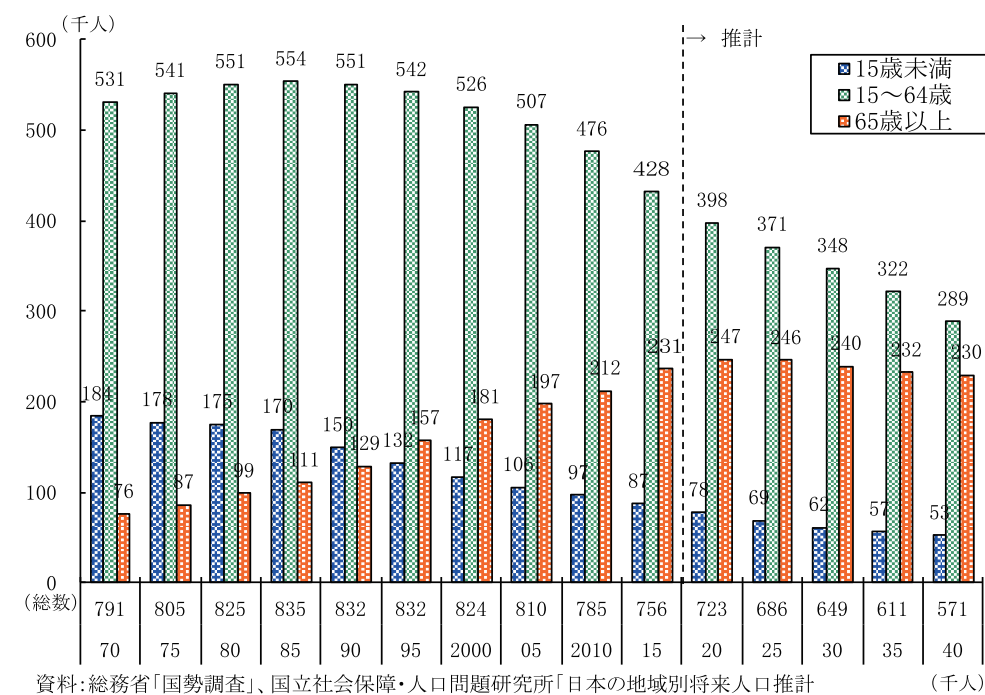
◎生産人口減少における労働の仕組みの激変

生産人口はすでに減少状態に入り、徳島県では2017年5月、46年間の統計史上、最も高い有効求人倍率を記録しました。しかしそれは好景気によるものではなく、人手不足、つまり現在の働き方では、労働者の数が足りておらず、将来も不足し続けることが容易に推測できます。

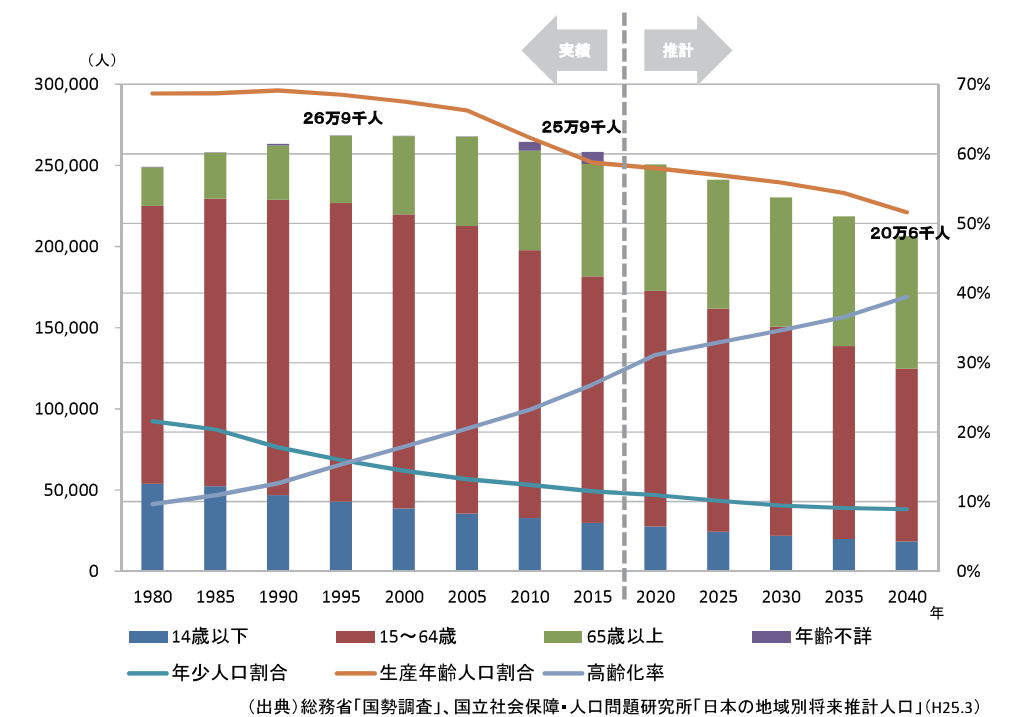
人口が減ることの事実を受け入れる!

徳島JCとしてこの推移、将来推計について、事実として受け入れる一方、来る人口減の時代に、徳島の経済活動や豊かな市民生活などが持続可能となるべく運動を行っていく必要があります。

徳島県の人口 推移と将来推計



徳島市における人口推移と人口推計

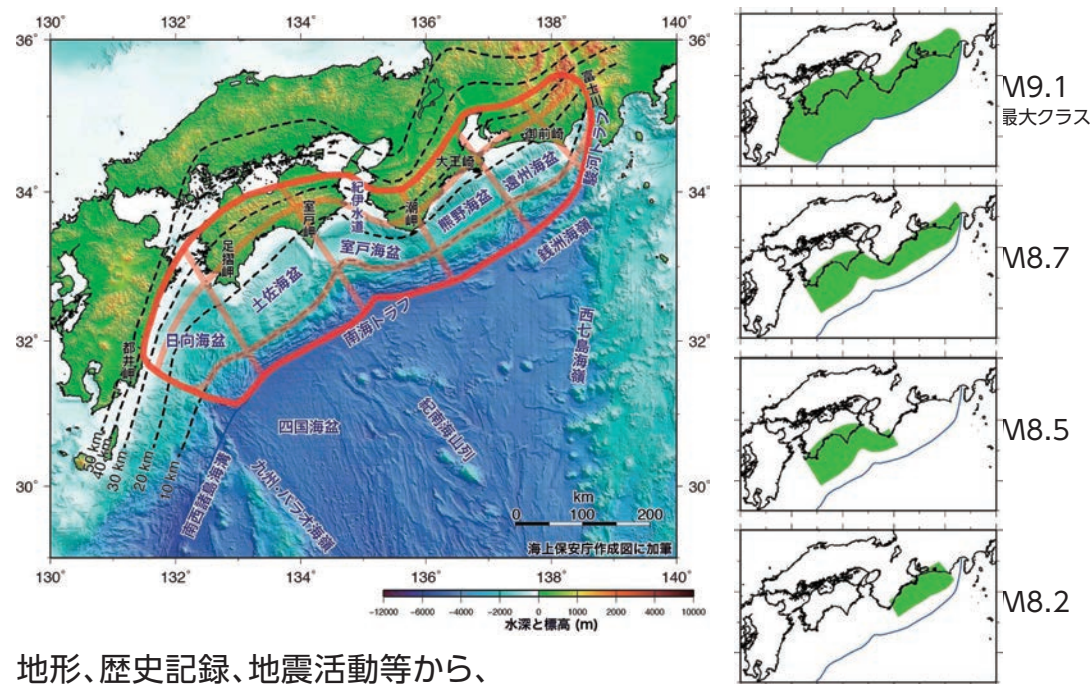


環境問題

◎切迫する自然災害リスク

今後30年以内に70%程度の確率で発生すると言われる南海トラフ地震を始め、風水害などの自然災害のリスクに備えるソフト・ハード両面の取組みを進める必要があります。行政の力だけで対応することは不可能であり、市民一人ひとりがそれぞれの役割を果たす「自助」「共助」による地域防災力の強化を図る必要があります。

地震調査研究推進本部事務局
南海トラフの地震活動の長期評価(第二版) 概要資料



多様なパターンの地震が発生

地形、歴史記録、地震活動等から、震源域となり得る領域を評価

	規模	30年確率
南海トラフの地震	M8~M9クラス	60~70%

南海トラフ全域で、規模、発生確率を評価



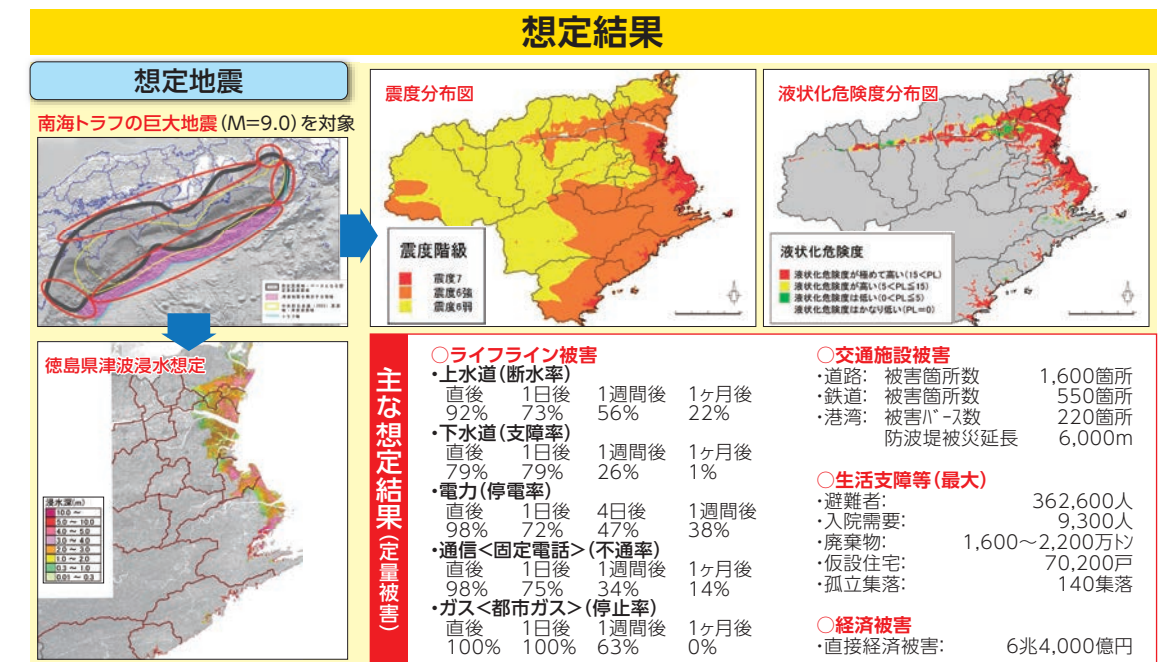
◎人的要員による自然環境問題

今世紀中に世界の温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを旨とする協定が発効され、脱炭素化社会の構築に向けた取り組みを加速しています。生活排水や自動車排気ガスなどによる都市生活型の環境汚染が問題となっており、環境への負荷が少ない社会構築に向けた取り組みが進んでいます。

災害は必ず来る! 地球環境を守ることは我々人類の使命である!

徳島J Cは災害に対して、常に危機感を持ち様々な状況を想定しながら、各地の青年会議所との連携を密にし、行政や地域との繋がりを強固にしなければなりません。そして、持続可能な地域となるべく、運動を行っていく必要があります。

徳島市危機管理課
徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第二次)の概要



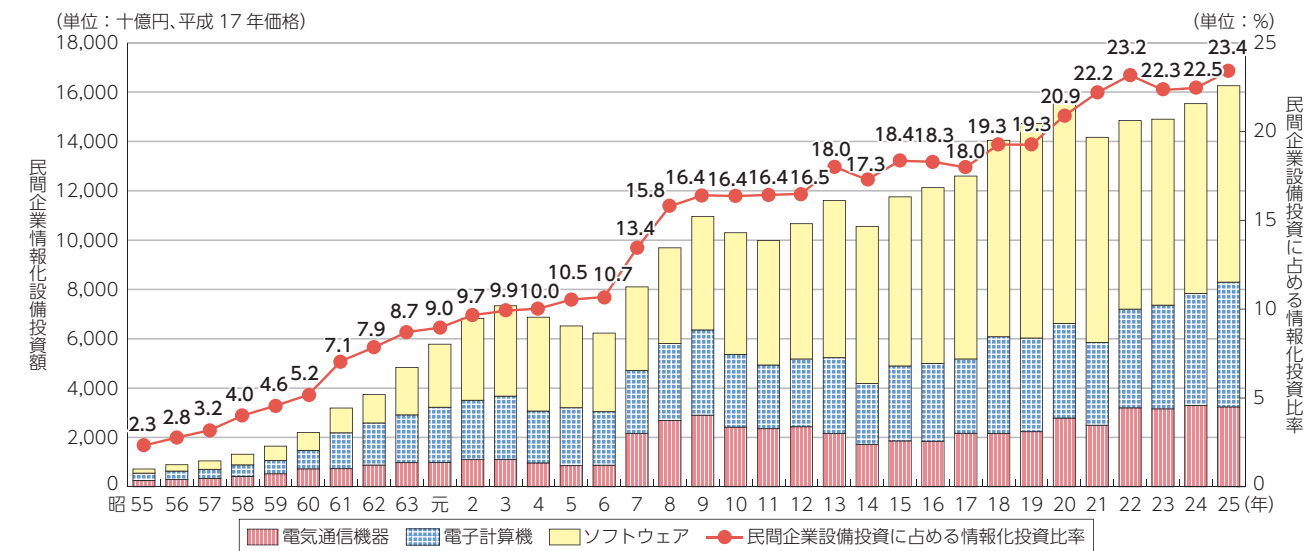
進化する社会

◎高度情報化の進展

情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)が進化を続ける中、いつでもどこでもネットワークにつながるユビキタスネットワーク社会という概念が、「モノのインターネット」(IoT:Internet of Things)となり、その中で生まれたビッグデータと呼ばれる巨大で複雑なデータ集合体をどのように利活用するかが産官学で研究されています。

これらの変化は、各産業のビジネスや産業構造そのものに大きな変革をもたらし、市民の生活にも影響を与えています。効率や利便性が向上する中、セキュリティリスクの増大やデジタル・ディバイドと呼ばれる「インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差の拡大」といった問題も生じています。

我が国の情報化投資の推移



(出典) 総務省「ICTの経済分析に関する調査」(平成27年)
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/link/link03.html>



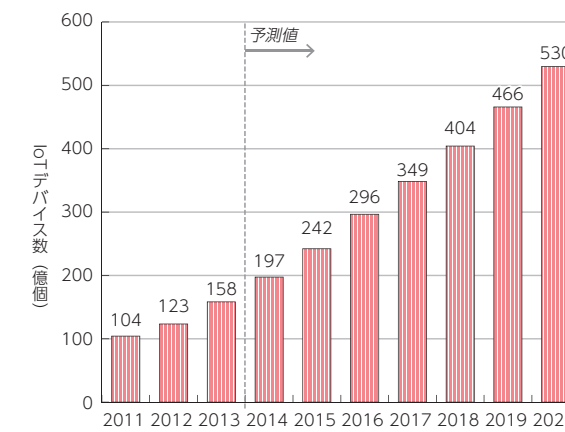
◎グローバル化の進展

自由貿易の推進に向けた動きや、海外投資の増大、訪日外国人の増加など、グローバル化が進展しています。このような世界的経済情勢の変化が、地域経済に大きく影響しており、国際化への対応が全国各地で進められています。

新しい時代を受け入れる!

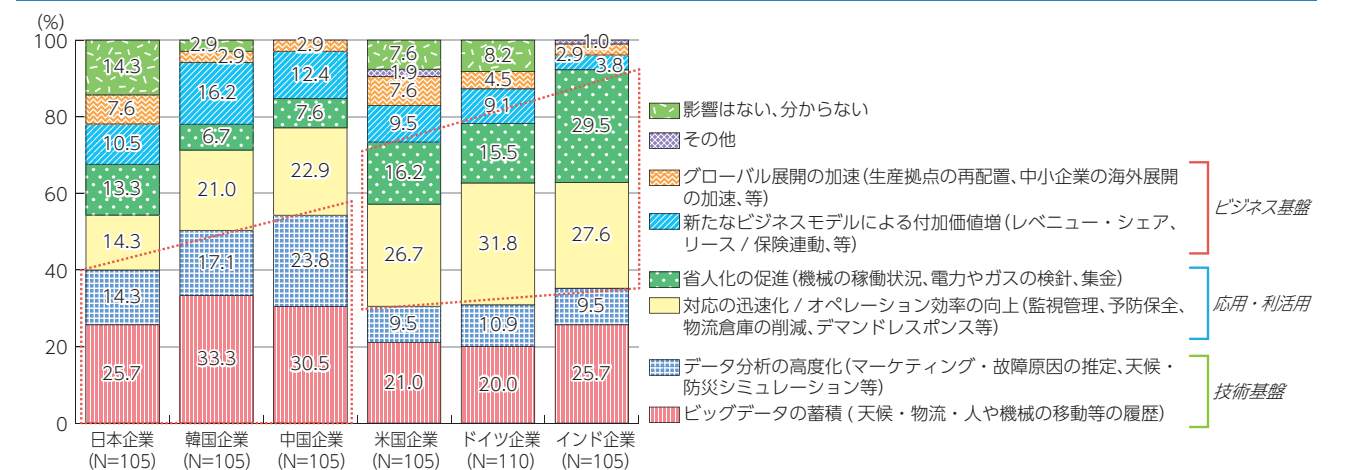
徳島J Cは過去にとらわれず、常に新しい社会情勢を見極め、時代に即した未来を見据える運動展開をする必要があります。

インターネットにつながるモノ(IoTデバイス)の数



(出典) IHS Technology

IoTによるビジネスへのインパクト



(出典) 総務省「グローバルICT産業の構造変化及び将来展望等に関する調査研究」(平成27年)

現状のまとめ

課題は何十、何百、何千もあります。
我々の考える課題解決のアプローチは
何万通りもあります。

人口問題

人口が減ることの事実を受け入れる!

徳島 J C としてこの推移、将来推計について、事実として受け入れる一方、来る人口減の時代に、徳島の経済活動や豊かな市民生活などが持続可能となるべく運動を行っていく必要があります。

環境問題

災害は必ず来る!

地球環境を守ることは我々人類の使命である!

徳島 J C は災害に対して、常に危機感を持ち様々な状況を想定しながら、各地の青年会議所との連携を密にし、行政や地域との繋がりを強固にしなければなりません。そして、持続可能な地域となるべく、運動を行っていく必要があります。

進化する社会

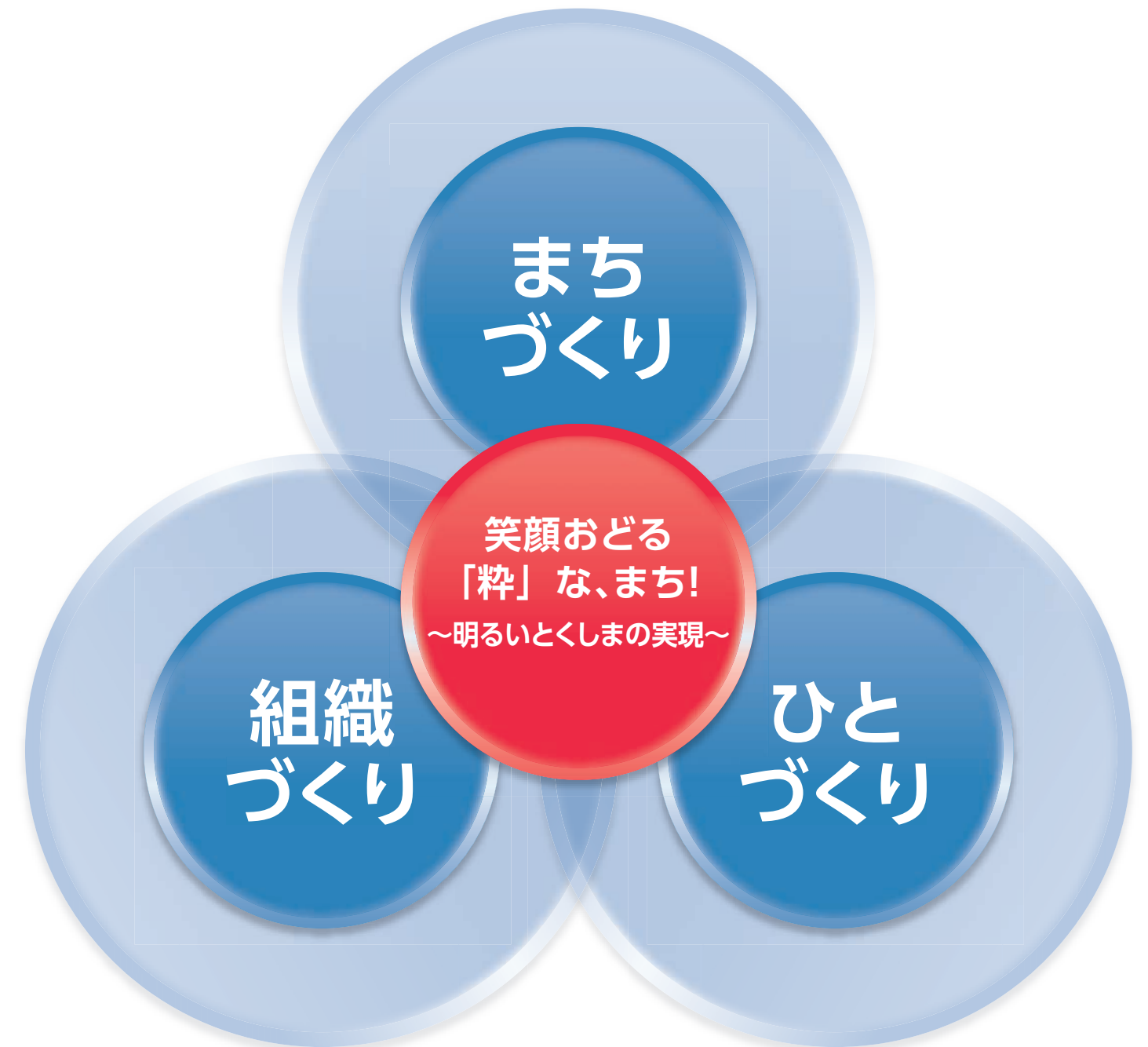
新しい時代を受け入れる!

徳島 J C は過去にとらわれず、常に新しい社会情勢を見極め、時代に即した未来を見据える運動展開をする必要があります。



～求めるものはひとつです! 徳島の笑顔～

笑顔おどる3つの像





未来の
笑顔

まち
づくり

安心で
笑顔

豊かな
笑顔

笑顔おどる「粋」な、まち! ~明るいとくしまの実現~

未来の笑顔!

●観光:阿波踊り、四国遍路、アウトドア 産業:藍染、木工、LED 様々な資源等の強みを生かし、人口減少の進行に伴う地域経済の縮小に歯止めをかけるとともに、グローバル化にも対応したまちづくりを行います。

- 徳島らしい文化・資源を継承し、発展させよう!
- 世界の多様化に対応したまちを目指そう!

豊かな笑顔!

●全国的に注目される水とともに発展した「水都」であり、眉山や城山等においても緑に恵まれた豊かな自然環境があります。その環境を生かし、次世代を育み、高齢者や障がい者など、誰もが安心して活躍できる持続可能なまちづくりを行います。

- 「安心」「豊かな」「美しい」徳島をつくろう!
- 持続可能な環境型社会を目指そう!

安心で笑顔!

●南海トラフ地震などの大規模自然災害等のリスクが高まっており、市民、事業者と行政が一体となった防災体制を整えるとともに、地域の特性を生かして、環境に優しく、安全で安心なまちづくりを行います。

- 防災に強い安全で安心な、徳島を目指そう!
- 徳島らしい生活環境をつくろう!



文化で
笑顔

ひと
づくり

つながる
笑顔

健康で
笑顔

笑顔おどる【料】な、まち! ~明るいとくしまの実現~

文化で笑顔!

●これまで受け継がれた歴史や伝統から優れた文化・芸術が生まれ、それらに親しむ機会は地域の経済に良い影響を与えるとともに、人びとの心を豊かにしています。文化活動を通じた交流を促進し、文化の担い手となる人財や、社会貢献を支える人財を育成します。

- 歴史と文化・芸術を継承するひとを育成しよう!
- 社会に貢献できるひとを育成しよう!

健康で笑顔!

●恵まれた自然とスポーツを通じた健康を結びつけ、「観る」「する」「支える」観点で心身ともに健康を促進します。それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて運動やスポーツを親しむとともに、夢と希望溢れる次世代を担う子どもたちへスポーツに触れる機会を創出できる人財を育成します。

- 地域スポーツに貢献し、機会を創出できるひとを育成しよう!
- 健康を促進し、夢と希望溢れる青少年を育成しよう!

つながる笑顔!

●まちで暮らす人びとが主役のまちづくりに向けて、自発的・活発的に参加できるよう行政と協力し地域コミュニティが核となる持続可能な地域自治を推進します。ワークショップが円滑に動き目的を達成できるように、創造・変革・合意形成等を支援するファシリテーター（協働促進者）としての人財を育成します。

- コミュニティを牽引するリーダーを育成しよう!
- 地域のファシリテーターとなるひとを育成しよう!



修練と笑顔!

●徳島青年会議所は対内対外活動を通して自己研鑽が出来る場所です。積極的な自己研鑽を行うための学びや気づきの機会が多くあります。新しい見識を自分の言葉で伝えられるリーダーシップを持った人財を育成し、魅力ある組織を構築します。

- 見識を養い、リーダーシップを発揮する組織になろう!
- 意識変革をもって、品格を醸成しよう!

奉仕と笑顔!

●人と人の関わり方は時代によって変化していますが、大事なことは常に率先して、自分の身を厭わず何事もやり遂げる奉仕の精神です。優しさ、義理人情、思いやりといった利他の心を持った組織を構築します。

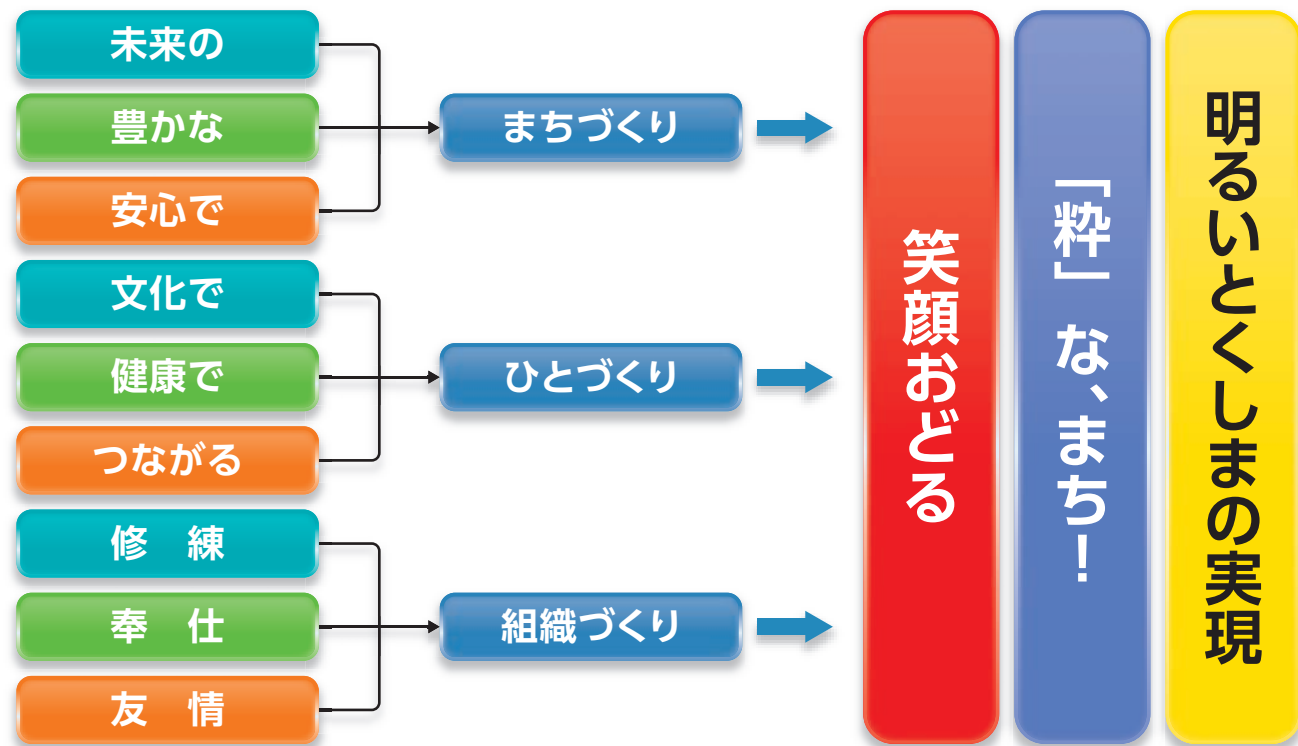
- 利他の心と奉仕の精神をもった組織になろう!
- 常に私事と捉え、率先して実践する組織になろう!

友情と笑顔!

●個人の力には限界があり、個人では出来ないことも組織の力を持って実行すれば実現可能となります。その力を最大限に発揮するには個人の相互の理解と友情がなければ成功しません。この友情の結びつきが青年会議所内だけでなく、地域の市民、各諸団体、また地域を越えて、世界へ友情を広げ平和に貢献できる組織を構築します。

- 相手の立場に立って、実践する組織になろう!
- 組織の在り方を考え、組織力を高めよう!

総括



笑顔おどる
 徳島には世界に誇る「おどり」があります。阿波踊りは誰のものでもない市民のもので、踊るものも観るものもすべてが笑顔です。笑顔があれば、幸せであることは間違いありません。徳島青年会議所は笑顔にとことんこだわります!

「粋」な、まち
 過去に活躍した阿波商人は広域に渡り、活発な経済活動を行っていました。阿波商人たちは藍で染めた着物を「粋」に着こなし、このまちは笑顔で溢れ、日本全国へとこの笑顔は拡散していきました。時代は変わっても、まちのあるべき理想は変わりません。徳島青年会議所は、まちがより活性化し、魅力的な地域となるべく、活動し続けます!

明るいとくしまの実現
 青年会議所の理念に「明るい豊かな社会」の実現があります。徳島青年会議所が阿波踊りの如くときには勇猛に、時にはしなやかに活動、運動を行い、市民に「粋」な心が宿ればどうなるでしょうか。まちの人々に「笑顔」が溢れる。「明るいとくしま」が実現され、まちが躍動する。そんな世の中を我々は目指しています!

徳島青年会議所60周年の新たな宣言

「徳島青年会議所ここにあり!!」

徳島青年会議所を今日まで育てていただいた先輩諸氏の言葉です。我々は地域におけるファシリテーターとして唯一、随一の集団であると自負いたします。それはおごりでもなく、「我々がやらなければ!」という強い責任感からくるものです。地域から求められる前に、まず動き!行動力を持って存在を示す。徳島の明るい未来のために。

ここに、我々徳島青年会議所の目標として、実行することを宣言いたします。

笑顔おどる「粋」な、まち! ~明るいとくしまの実現~

SWOT分析

(1)徳島J Cの「機会・脅威」「強み・弱み」

※内部からの分析

機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ◎市民の社会貢献意識の向上 ◎市民のライフスタイル多様化 ◎行政、企業、地域社会、各種団体それぞれを結びつけるコーディネーター役の必要性 ◎単年度制による活性化 ◎外国人観光客の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域経済の低迷による影響 ◎専門性を有した各種団体の台頭 ◎急速な時代の変革スピード ◎各種団体担当者異動による継続性 ◎各事業所の減少 ◎J C単体による運動の制限
強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ◎強固な組織や多岐にわたるネットワーク基盤 ◎60年間のまちづくりノウハウ ◎確立された意志決定の伝達系統 ◎組織の柔軟性・瞬発力 ◎組織力・団結力がある ◎イノベーション能力が高い ◎四国NO.1を誇る会員数=予算増 	<ul style="list-style-type: none"> ◎単年度制による運動・事業の継続 ◎情報発信ツールの組織化 ◎提言等に対する進捗管理 ◎各種団体との組織的連携の継続 ◎入会3年未満のメンバーが多い ◎事業実施までのプロセスに時間がかかる ◎認知度がそれほど高くない

(2)徳島の「機会・脅威」「強み・弱み」

※外部からの分析

機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ◎地方創生への権限拡大 ◎交通網整理による広域交流の活発化 ◎観光ビジネスエリアの拡大 ◎情報技術革新による地方の情報発信 ◎市内の人口密度が高い ◎四国新幹線構想 ◎阿波踊り等による経済効果 	<ul style="list-style-type: none"> ◎人口減少、生産労働人口の減少 ◎少子高齢化 ◎近年起こるとされる南海トラフ大地震 ◎消費者の大都市圏への流出 ◎市一点集中型 ◎人のつながりが希薄になっている ◎温暖化による影響
強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ◎自然豊かな都市 ◎歴史と風土の育てた徳島独自の文化 ◎景観面の環境充実 ◎プロスポーツへの意識向上(活性化) ◎過疎地再生モデルケース ◎LEDによる地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎若者の帰県率の低さ ◎総合交通体系確立の遅れ ◎中核都市になっていない ◎中心市街地の空洞化 ◎ホテル、旅館軒数全国下位 ◎日帰り観光客の増加

おわりに

我々、徳島青年会議所は歴史と伝統ある組織であり、徳島の青年世代の代表組織として日々運動しています。存在意義は郷土徳島を誰よりも知り、誰よりも愛し、自らがまちのために積極的に行動することです。

これからも民間団体の中核として、まちづくり、ひとづくり、組織づくりを推進して参ります。まちに明るい未来を示し、人々と想いを共有し、利他の精神とともに品格ある誇り高き団体として歩んで参ります。徳島青年会議所のメンバー一人ひとりが資質向上を意識し、輝いていれば、真の人間力を構築することが出来ると考えます。

そして地域に愛され、頼られる団体として、何事も徳島青年会議所が先導し、明るい豊かな社会の実現に向けて邁進し続けていかななくてはなりません。

我々の運動に限界はありません。熱い想いや夢を抱いて理想を追求し行動することは我々青年に与えられた使命であり責任であります。自ら限界を設けることなく、無限の可能性を常に意識していくことで、まちの中でもっと大きな存在になっていけると信じています。

こうしたことを常に念頭に置き、大胆な発想力や行動力を忘れることなく、地域社会の正しい発展、より良き社会の実現を目指してお互いの友情を深め、自己研鑽を通して青年経済人として、これからも邁進して参ります。

良き伝統は継承しながらも、これまでの運動に縛られることなく、時代の変革とともに新しい可能性へチャレンジを果敢にしていすることで、新たな我々の目指すべき姿が明確に見えてくると考えます。徳島青年会議所の輝ける未来のために志高く運動していきます。



出典一覧

- ・徳島市まちづくり総合ビジョン
- ・徳島県の経済と産業
- ・徳島青年会議所50周年補完計画

策定までの流れ

- ・4月19日: 第一回中長期戦略会議
- ・4月28日: 第二回中長期戦略会議
- ・5月15日: 第三回中長期戦略会議
- ・6月5日: 第一回中長期分科会
- ・6月12日: 第二回中長期分科会





一般社団法人徳島青年会議所 創立60周年記念誌

編集後記

一般社団法人徳島青年会議所が創立60周年という記念の年に広報委員長をさせていただいた事を光栄に思います。初めは60年という歴史をどのように情報を集めればよいのか分からず手探りの中で、委員会メンバーと文章や写真の整理をしていきました。

そして、先輩方に作成した際の情報や方法などの話をしていく中で諸先輩方が築きあげられてきた歴史と優しさを感じることができました。改めて徳島青年会議所の素晴らしさを感じることができました。

この記念誌が徳島青年会議所の「未来」へ少しでも役立ち、今後のまちづくりやひとづくりへの糧となれば幸いです。

最後になりますが、本誌作成においてご寄稿、写真や文章等の資料をご提供いただいた各種関係者の方々、編集に携わったメンバーの皆様方には深く感謝するとともに、ご協力がなければ作成することが出来なかったと思います。本当にありがとうございました。

創立60周年記念誌編集担当

一般社団法人 徳島青年会議所
2017年度 かがやけ！広報・提言委員会

- 副理事長 藤川 修誌
- 室長 萬 尚人
- 委員長 角 浩一
- 副委員長 柏原 弘明
- 運営幹事 田中 賢治
- 委員 岩佐 晃弘
今川 大豪
坂本 新太郎
川上 隆治
新居 彰子
中山 秀之
長谷川修一
林 勇作
鷗川 康宏

創立60周年中長期計画立案担当

一般社団法人 徳島青年会議所
2017年度 60周年実行グループ 中長期戦略小委員会

- 副理事長 福島 義史
- 実行委員長 佐藤 雅俊
- 副委員長 新居 勇気
- 副委員長 島本 浩司
- 運営幹事 古宅 貴俊
萱谷 修二
小林 信太郎
左東 久史
高木 直
多田 健人
田中 英太郎
中野 敏雄
浜口 修二
宮崎 守通
山崎 尚人
吉岡 誉敏

- 印刷 株式会社教育出版センター
徳島県徳島市川内町平石流通団地27
TEL / 088-665-6060(代) FAX / 088-665-6080
- レイアウト k-design株式会社
徳島県徳島市南昭和町2丁目55-4
TEL / 088-635-6782 FAX / 088-635-6741